

認め合い・支え合う集団へ

副校長 亀田 泰紀

「裏方の友達が休んだときに、演者の友達が手伝ってくれて嬉しかった。」「人前に出るのが苦手な友達が、がんばってせりふを言っていた。」「〇〇さんの声が大きくて聞きやすかった。△△さんが文をすらすらと読んでいてすごかった。」「6年生の劇が本格的で感動した。」「1年生がせりふをしっかり覚えていて、歌も大きな声で歌っていた。」「5年生のアスレの森の発表を見て、自然を大切にしようと思った。」…。これは昇降口近くに掲示してある全校児童が書いたメッセージの一部です。このメッセージは、運営委員会児童が瀬ヶ崎小を笑顔いっぱいの学校にするために今年度実施している取組のひとつで、「ほめほめシャワー計画」と名付けられています。スポーツフェスティバルやふれあいフェスティバルなど行事の後に児童一人ひとりが、学級や学年、異学年の友達の「いいな」「優しいな」「成長したな」と思ったところを書いています。足を止めてメッセージを見る児童はみんな笑顔になっています。



運営委員会の取組だけではなく、学級でも日常的に学習や生活において友達のよいところを認める取組を継続しています。例えば、帰りの会において日直の児童のよいところをみんなで順番に発表する、その日よい行動をした友達を発表し賞賛するなどの活動が挙げられます。学級により形は違いますが、互いに認め合う機会を大切にしています。

こうした他者から認められる体験の積み重ねは、自分に今ひとつ自信をもてない児童の背中を後押しし、主体的に行動するための勇気を与えてくれます。自分の学びや成長に自信をもつことで自尊感情を高め、「次はもっとよい発表にしたい。」「自分の長所を伸ばしていきたい。」などの目標をもち、次の機会に向けた意欲へとつながっていきます。また、他者と協働して物事を成し遂げた経験や認められる体験を通して、人とかわることを楽しさを実感した児童は、「もっと人とかわかりたい」という気持ちを高め、社会性の基礎を育てていきます。

4月にスタートしたときは単なる生活集団に過ぎなかった学級ですが、集団としての目標を共有し、学習や行事などに力を合わせて取り組み、日々生じる様々な問題を乗り越えていくことで、認め合い・支え合う

集団に変容しています。そんな素敵な仲間と過ごせる時間も残り僅かになってしまいました。共に切磋琢磨してきた仲間への感謝の気持ちを忘れずに、残りの日々を充実したものにしてもらいたいです。また、職員も児童同様に力を合わせて指導していきます。



新しい年がスタートした1月も、邦楽教室、昔遊び体験など多くの地域の方にご協力頂きました。本当にありがとうございます。今後とも変わらぬご支援・ご協力のほど、よろしくお願いいたします。